

2019年度 調査結果（2018年8月発行）

外国人留学生の就職活動状況

加速する日本企業のグローバル化への対応や訪日外国人対策のため、また、深刻な人材不足を補うため、外国人留学生の採用ニーズは高まっている。ディスコではキャリアス就活2019に会員登録している外国人留学生を対象に、職業観や就職活動状況などを調査した。比較可能なものに関しては、国内学生や海外の大学で学ぶ日本人留学生の調査データを引用しながら分析する。

【主な調査内容】

- | | |
|---------------------------------|---------------|
| 1. 現在の日本語力 | ・・・・・・・・ P 2 |
| 2. 就職後のキャリアプランと出世希望ランク | ・・・・・・・・ P 3 |
| 3. 就職したい企業の種類 | ・・・・・・・・ P 3 |
| 4. 日本での就職を希望する理由 | ・・・・・・・・ P 4 |
| 5. 日本企業のイメージ | ・・・・・・・・ P 4 |
| 6. 就職したい企業の規模と志望業界 | ・・・・・・・・ P 5 |
| 7. 就職先企業を選ぶ際に重視する点 | ・・・・・・・・ P 6 |
| 8. インターンシップ | ・・・・・・・・ P 7 |
| 9. 就職活動開始時期 | ・・・・・・・・ P 8 |
| 10. 就職活動量と内定状況 | ・・・・・・・・ P 8 |
| 11. 就職活動の難易度 | ・・・・・・・・ P 9 |
| 12. 企業に評価してもらいたいこと | ・・・・・・・・ P 9 |
| 13. 企業研究をする上で必要な情報／もっと発信してほしい情報 | ・・・・・・・・ P 10 |
| 14. 就職活動の情報源 | ・・・・・・・・ P 11 |
| 15. 日本の就職活動でおかしいと思った制度や習慣 | ・・・・・・・・ P 12 |

《調査概要》

調査対象：2019年3月卒業予定の外国人留学生（現在、大学4年生・大学院修士課程2年生）
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2018年6月28日～7月18日
 サンプルング：キャリアス就活2019に登録している外国人留学生2,769人

回答者の属性 単位：人

	男子	女子	合計
文系	71	150	221
理系	32	24	56
合計	103	174	277

大学院	149
学部	128
合計	277

国公立	108
私立	169
合計	277

●出身国・地域

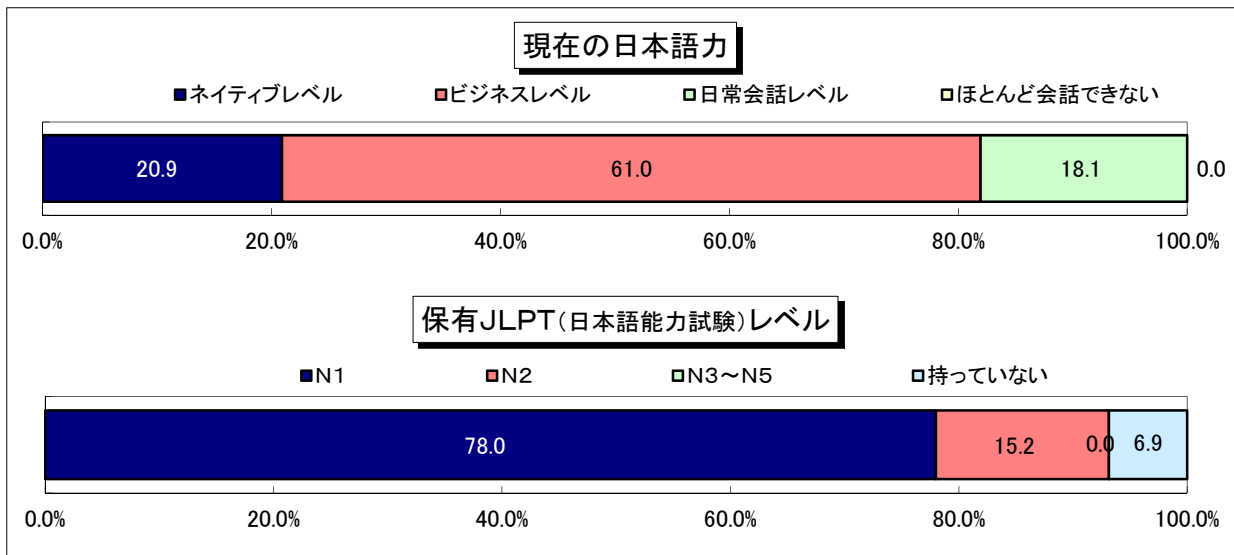
中国	韓国	台湾	東南アジア	南アジア	中央アジア	イギリス	ロシア	北米	中南米	オセアニア	合計
178	26	24	40	1	1	1	1	1	3	1	277

※国内学生の調査結果は「キャリアス就活2019 学生モニター調査」（2017年11月、2018年1月～3月、7月調査）より

※日本人留学生の調査結果は「海外留学生の就職活動に関する調査結果」（2018年4月発行）より

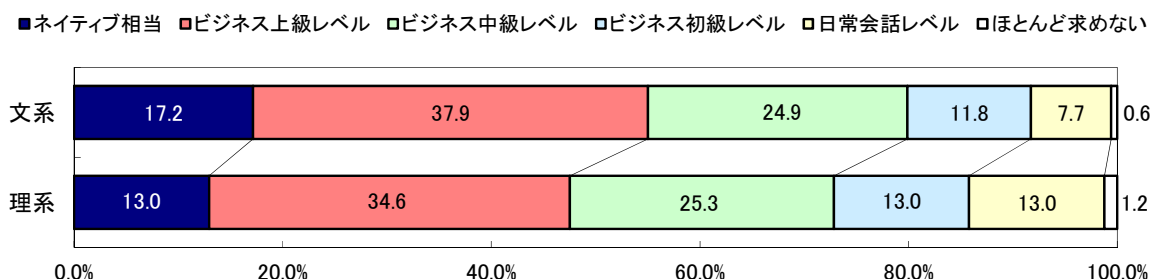
1. 現在の日本語力

はじめに、現在の日本語力について尋ねた。「ネイティブレベル」(20.9%)と「ビジネスレベル」(61.0%)を合わせて、ビジネスレベル以上の日本語を話せる外国人留学生は8割を超える(計81.9%)。JLPT(日本語能力試験)のレベルについては、最高レベルである「N1」を保有している人は約8割(78.0%)。他方、「持っていない」人は1割に満たない(6.9%)。企業が求める日本語コミュニケーションレベルやJLPTの入社基準に達している外国人留学生は多い。

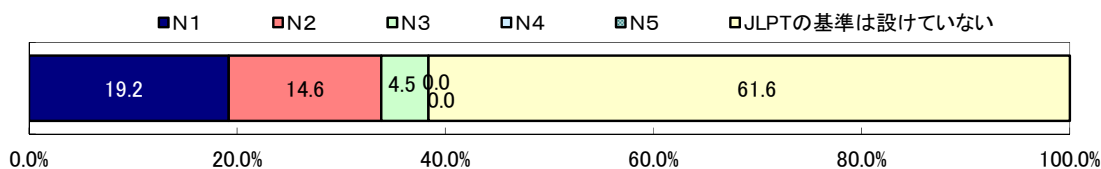


【参考】

企業が外国人留学生の内定時に求める日本語コミュニケーションレベル



外国人留学生採用時のJLPTの入社基準



■ JLPT(日本語能力試験)とは？

日本語を母国語としない人の日本語能力を測定し認定する試験。

【N1】幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。

【N2】日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。

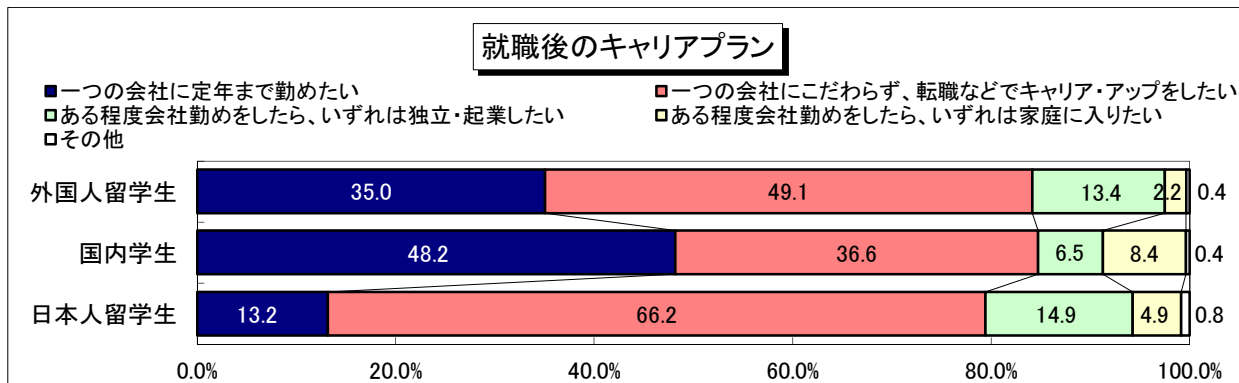
【N3】日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。

【N4】基本的な日本語を理解することができる。

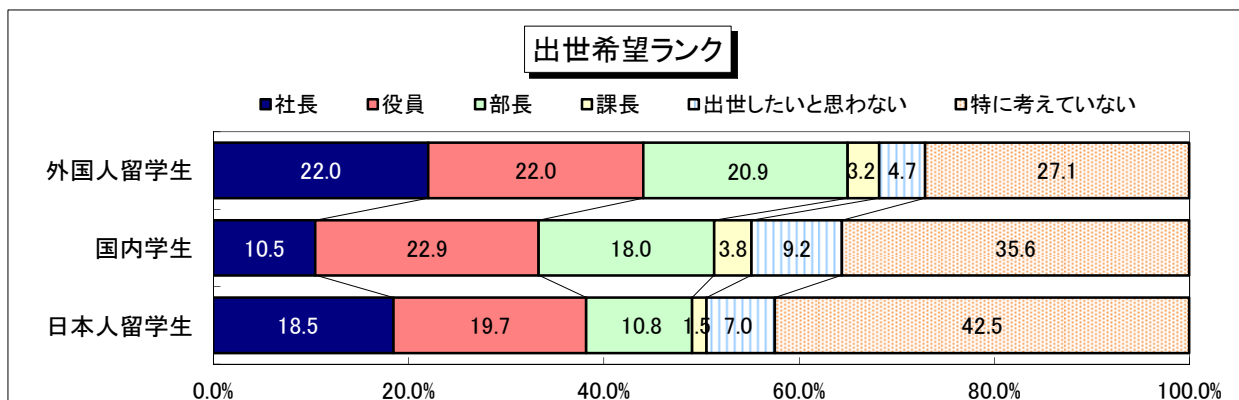
【N5】基本的な日本語をある程度理解することができる。

2. 就職後のキャリアプランと出世希望ランク

就職後のキャリアプランについては、「一つの会社にこだわらず、転職などでキャリア・アップをしたい」が最も多く（49.1%）、「一つの会社に定年まで勤めたい」（35.0%）を上回る。国内学生と比べて、転職でのキャリア・アップや独立・起業を志向する学生の割合が高い傾向にある。

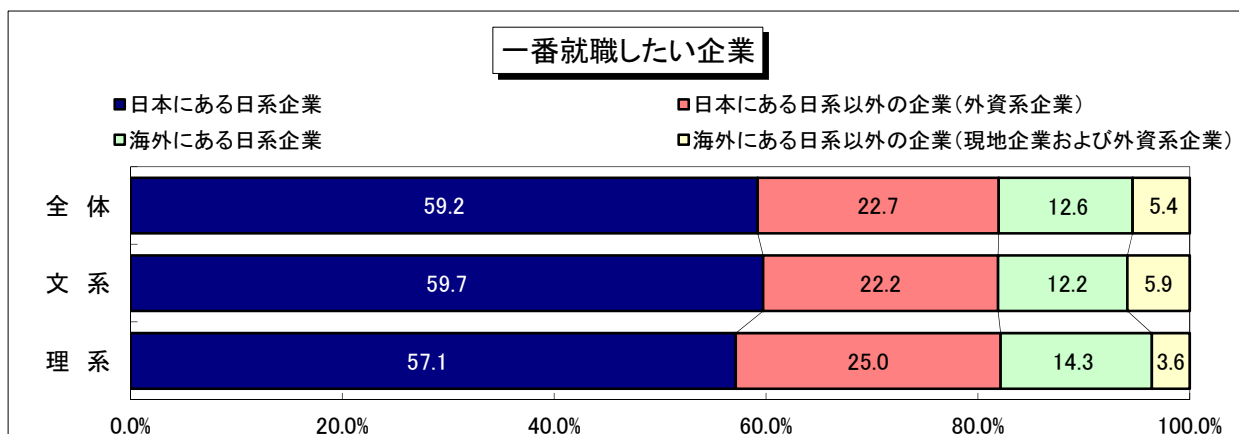


続いて、どこまで出世したいかを尋ねたところ、「社長」「役員」と回答した人が、それぞれ22.0%。課長以上の管理職を志望する外国人留学生は約7割に上る（68.1%）。国内学生や日本人留学生と比べると、より上位の役職を目指している人が多い。



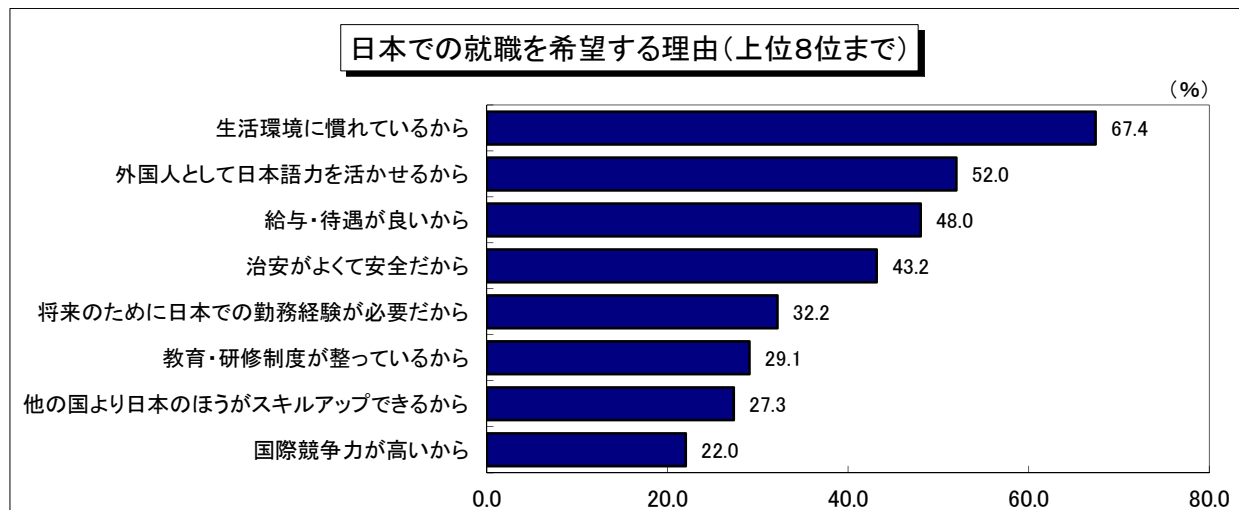
3. 就職したい企業の種類

卒業後にどのような企業に就職したいかを尋ねたところ、「日本にある日系企業」が最も多く、6割近い学生が選んだ（59.2%）。「日本にある外資系企業」（22.7%）と足し合わせると8割を超え（計81.9%）、卒業後も日本で働きたいと考える学生が多いことがわかる。



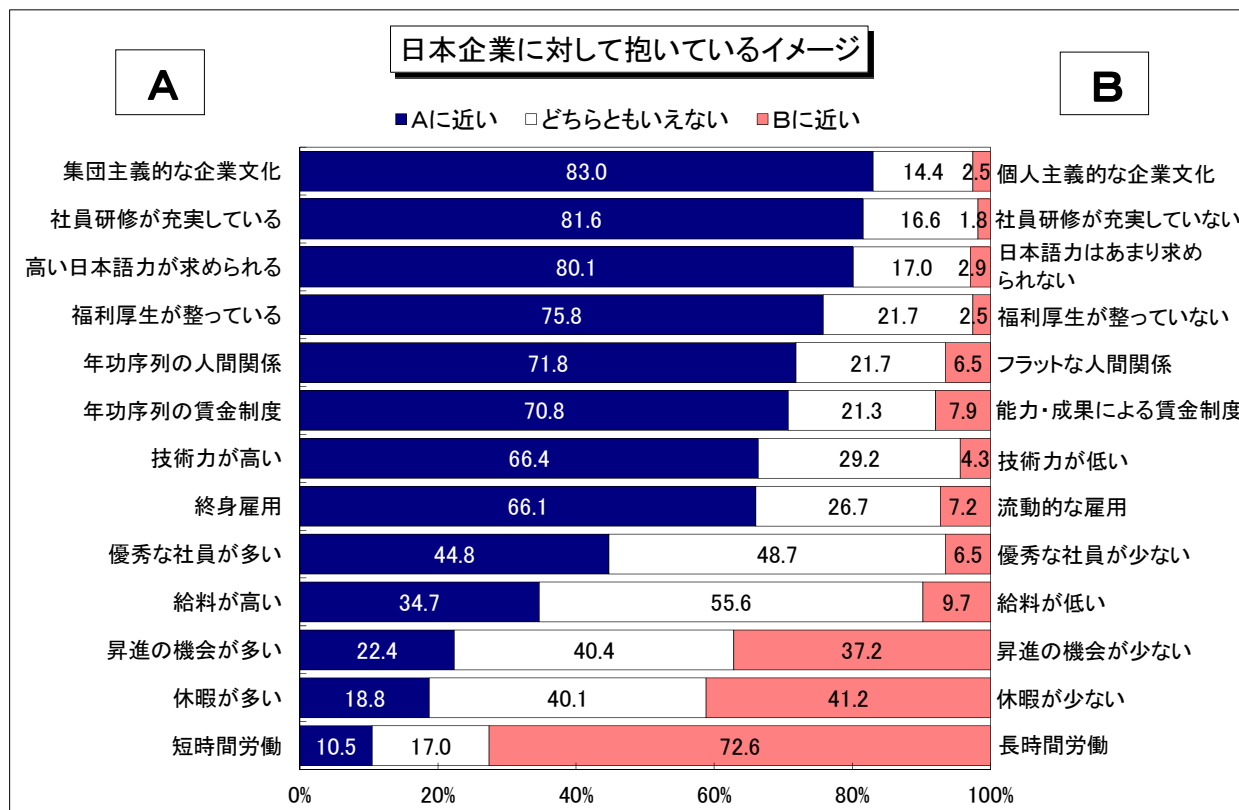
4. 日本での就職を希望する理由

「日本で就職したい」と回答した人に、その理由を尋ねた。最も多いのは「生活環境に慣れているから」で、約 7 割(67.4%)。4 位の「治安がよくて安全だから」も 4 割超が選んでおり(43.2%)、日本の住みやすさを理由に挙げる留学生が多い。「外国人として日本語力を活かせるから」は 2 番目に多く過半数が選択 (52.0%)。日本での留学経験を活かして活躍したい考えがうかがえる。



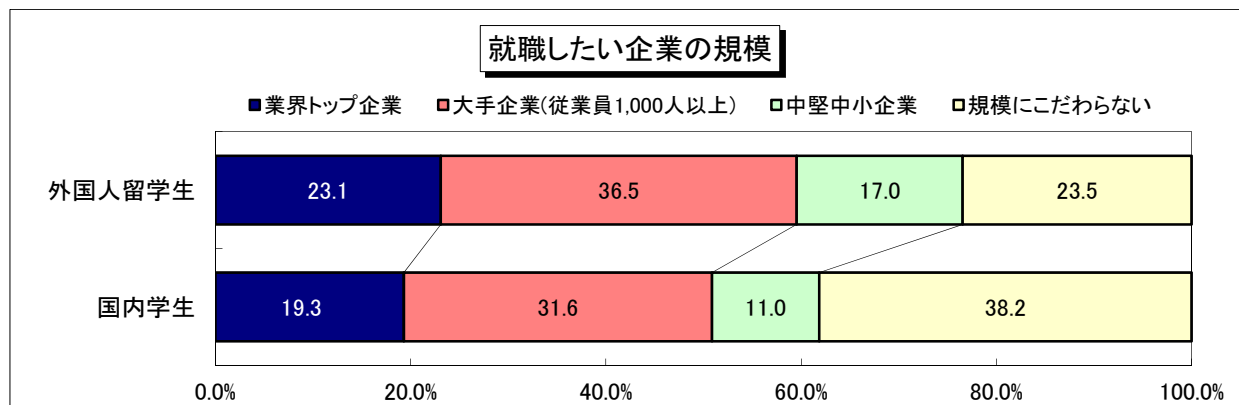
5. 日本企業のイメージ

日本企業のイメージについて尋ねたところ、「集団主義的な企業文化」(83.0%)、「社員研修が充実している」(81.6%)、「高い日本語力が求められる」(80.1%)、「福利厚生が整っている」(75.8%)、「長時間労働」(72.6%)などが多くのポイントを集めた。数字が割れる項目は少なく、外国人留学生が日本企業に対して持つイメージはある程度共通していることがわかる。



6. 就職したい企業の規模と志望業界

就職したい企業規模を尋ねたところ、「業界トップ企業」(23.1%)と「大手企業」(36.5%)を合計すると6割近くに上る(計59.6%)。大手志向と言われる国内学生より10ポイント近く高く、外国人留学生の大手志向の強さがうかがえる。一方で、「中堅中小企業」を希望する学生の割合も、国内学生を上回っており、希望の企業規模を明確にして就職活動をする傾向があるようだ。



続いて、志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらった。文系では1位が「商社(総合)」(34.4%)で、グローバルに活躍できる業界として毎年人気だ。2位は「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」(23.4%)、3位は「調査・コンサルタント」(22.5%)と続く。4位に「情報・インターネットサービス」が僅差で続き(22.0%)、IT業界の人気が高い。

理系では、1位「電子・電機」(30.4%)、2位「自動車・輸送用機器」「水産・食品」(ともに25.0%)と続き、研究・開発職など専門性の高い仕事に就ける製造業が人気のようだ。

なお、国内学生と比較すると違いが見られた。特に、文系においては、国内学生では1位の「銀行」、2位の「マスコミ」はそれぞれ9位、10位になるなど、志望業界の違いが顕著に表れている。

就職活動当初の志望業界(上位10業界)

※40業界の中から5つまで選択 (%)

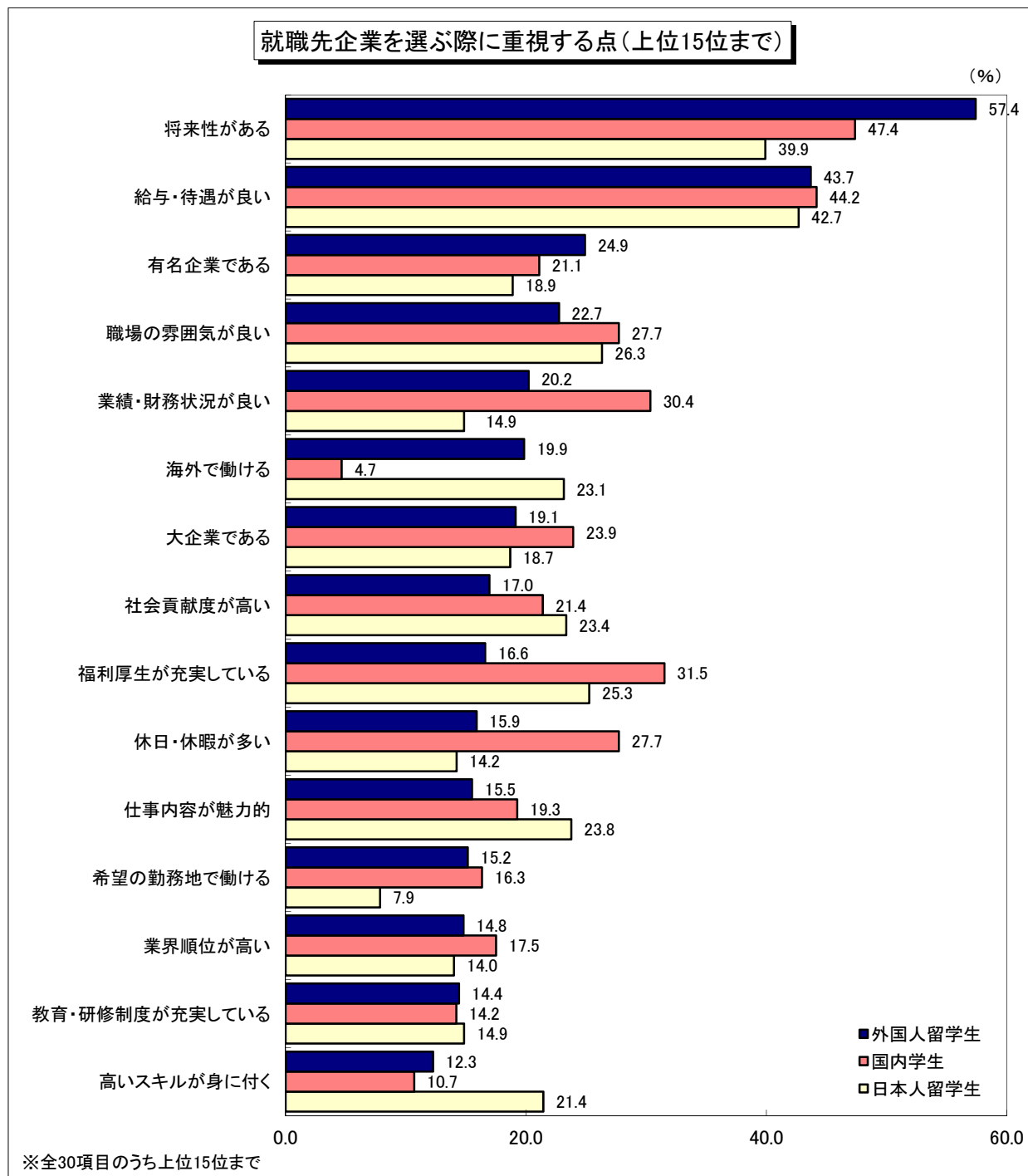
文 系				理 系			
外国人留学生		国内学生		外国人留学生		国内学生	
1	商社(総合) 34.4	1	銀行 22.1	1	電子・電機 30.4	1	素材・化学 26.8
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 23.4	2	マスコミ 18.7	2	自動車・輸送用機器 25.0	2	水産・食品 23.1
3	調査・コンサルタント 22.5	3	商社(専門) 16.6		水産・食品 25.0	3	医薬品・医療関連・化粧品 22.1
4	情報・インターネットサービス 22.0	4	商社(総合) 16.3	4	医薬品・医療関連・化粧品 23.2	4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 21.6
5	自動車・輸送用機器 20.1	5	官公庁・団体 16.1		素材・化学 23.2	5	情報・インターネットサービス 20.1
6	商社(専門) 19.6	6	建設・住宅・不動産 15.9	6	エネルギー 21.4	6	電子・電機 18.4
	電子・電機 19.6	7	運輸・倉庫 15.4		情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 21.4	7	自動車・輸送用機器 16.7
8	ホテル・旅行 18.7	8	調査・コンサルタント 14.6	8	機械・プラントエンジニアリング 16.1	8	機械・プラントエンジニアリング 15.2
9	銀行 13.9	9	情報・インターネットサービス 14.3	9	精密機器・医療用機器 14.3	9	建設・住宅・不動産 12.0
10	マスコミ 12.0	10	保険 14.0	10	商社(総合) 12.5		調査・コンサルタント 12.0
					情報・インターネットサービス 12.5	通信関連 12.0	

※国内学生は3月調査

7. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

外国人留学生が就職先を選ぶ際に重視する点は、「将来性がある」が最も多く、約6割に上る(57.4%)。国内学生でも1位だが、外国人留学生の方が10ポイント高い。2位は「給与・待遇が良い」(43.7%)で、国内学生と同水準(44.2%)。国内学生では、全体的に分散傾向が見られるのに対し、外国人留学生では、上位2項目にポイントが集中しているのが特徴的。

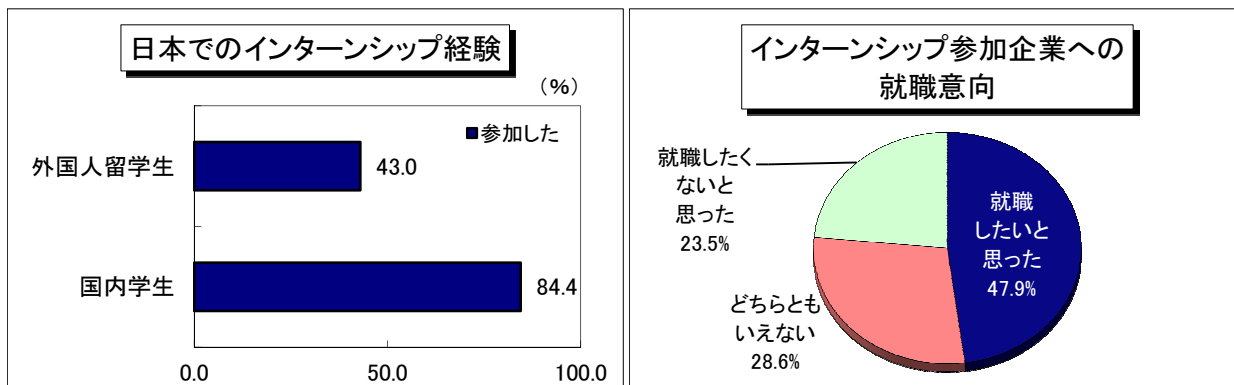
「福利厚生が充実している」「休日・休暇が多い」などの働きやすさに関する項目は、国内学生では、それぞれ3割前後と高いのに対し(31.5%、27.7%)、外国人留学生ではその半分程度にとどまっており(16.6%、15.9%)、国内学生ほど関心は高くないようだ。



8. インターンシップ

日本国内でのインターンシップ参加経験を尋ねたところ、「参加した」と回答した外国人留学生は約 4 割（43.0%）。国内学生のインターン参加率（84.4%）の半分程度にとどまり、参加状況に大きな差が見られる。

インターン参加企業に「就職したいと思った」外国人留学生は約半数（47.9%）に上り、就職先企業選びに一定の影響を与えていることがうかがえる。



■インターン企業に就職したい理由

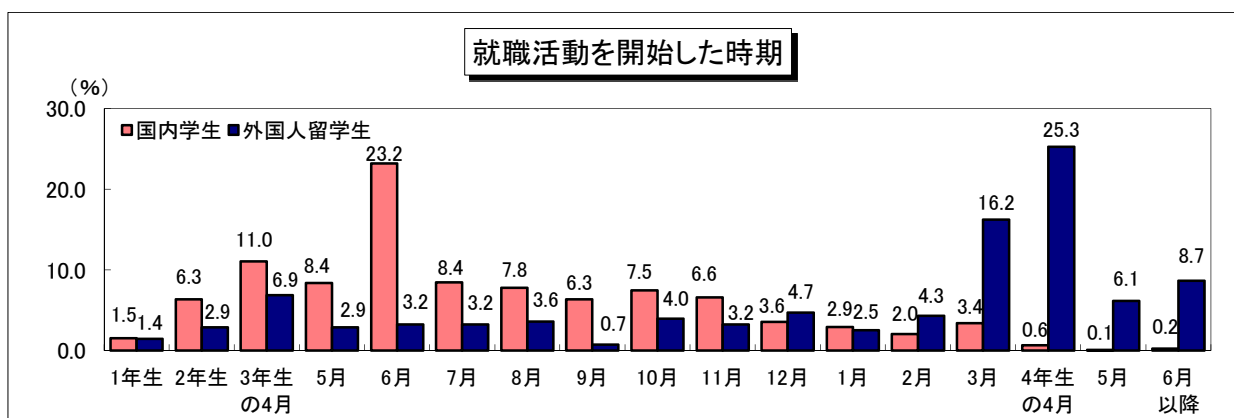
- そこでやりたいことを見つけたからです。 <台湾出身>
- 会社をよく知ることができたから。また社員と話をすることにより、社内の雰囲気肌が肌で感じられたから。 <中国出身>
- 会社の雰囲気がよく、やりがいを感じた。その会社で自分が貢献したいことが見えた。 <ベトナム出身>
- 優秀な社員さんが多いので、一緒に仕事したいと思った。 <中国出身>
- 実際に職場環境を体験できたから。 <台湾出身>

■インターン企業に就職したくない理由

- 業界研究のためインターンをしたので、結果的に向いてないと思いました。 <中国出身>
- 自分が思っていた雰囲気と乖離があったため。 <韓国出身>

9. 就職活動開始時期

外国人留学生が就職活動を開始した時期は、「4 年生の 4 月」が約 3 割（25.3%）で最多で、次いで「3 年生の 3 月」（16.2%）が多い。採用広報解禁（3 月）以降の合計は半数を超える（56.3%）。一方、国内学生では「3 年生の 6 月」が最も多く（23.2%）、3 月より前の合計が 9 割を超えている（95.7%）。夏のインターンシップを「就活スタート」と捉え、早くから準備に入る国内学生が多いことと比較すると、外国人留学生の動き出しはかなり遅いことがわかる。



10. 就職活動量と内定状況

調査時点（7月）での企業へのエントリー社数は、平均27.6社。同時期の国内学生（30.7社）の約9割。例年、国内学生を大きく下回っていたが、国内学生の活動量が減少したことで、その差は縮まった。セミナー参加社数についても、国内学生と大きな差は見られない。

エントリーシートの提出社数は、19.2社と、国内学生よりも5社多い。その後の筆記、グループディスカッション、面接においても国内学生の受験社数を上回り、精力的に活動している様子が見える。

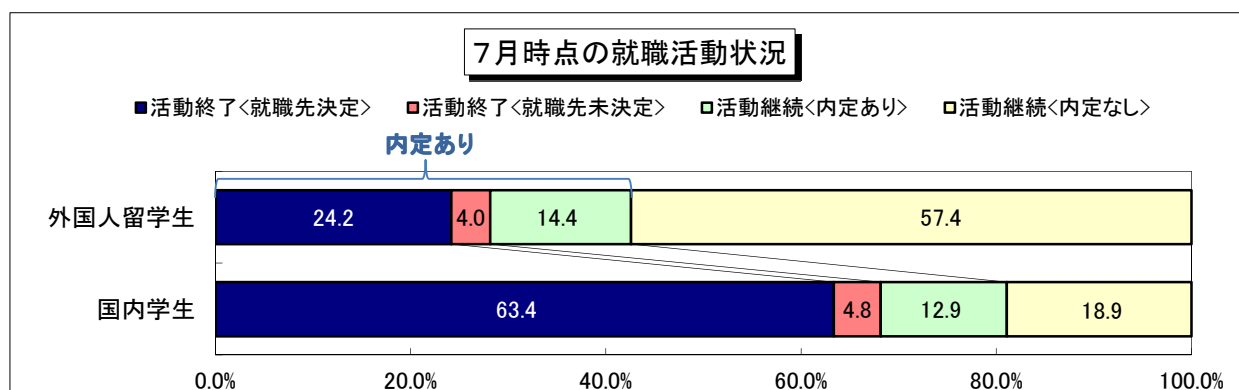
ただし、内定率は、国内学生が8割超（81.1%）であるのに対し、外国人留学生は4割台（42.6%）にとどまる。内定取得者も含め71.8%が調査時点で就活中だった。国内学生に比べて、就職活動の動き出しが遅いことなどが影響していると考えられる。

エントリー社数					
(社)					
	全体	(前年)	文系	理系	【国内学生】
エントリー社数	27.6	26.1	28.8	22.7	30.7

セミナー参加社数					
(社)					
	全体	(前年)	文系	理系	【国内学生】
企業単独開催セミナーの社数	12.4	11.1	13.2	9.1	13.9
合同開催セミナーでの訪問社数	11.1	10.7	10.9	11.9	10.9
学内開催セミナーでの訪問社数	5.6	6.3	5.2	7.1	7.9

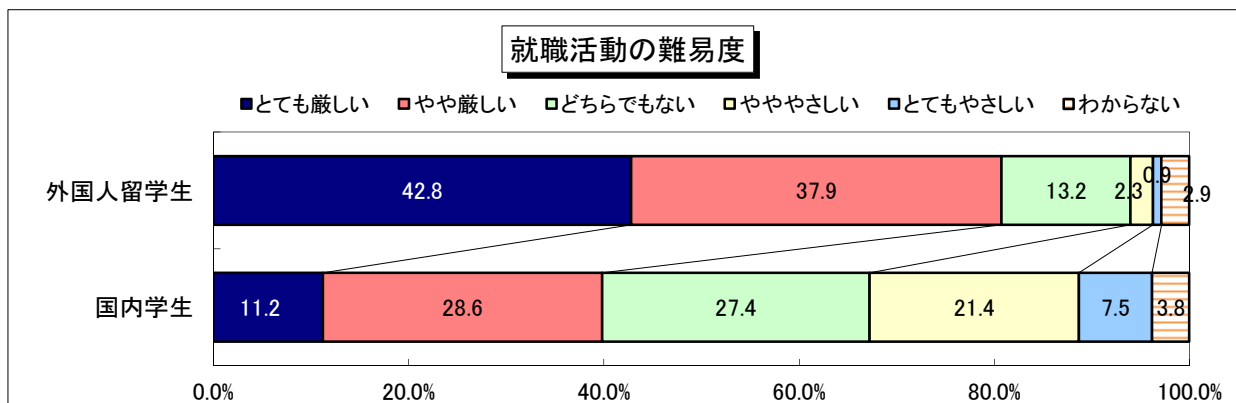
選考試験受験社数					
(社)					
	全体	(前年)	文系	理系	【国内学生】
エントリーシート提出社数	19.2	15.8	19.7	17.3	14.0
筆記・WEB試験の社数	12.1	10.6	12.5	10.5	10.0
グループディスカッションの社数	4.9	3.9	5.1	3.8	3.6
面接試験の社数	8.8	7.2	8.9	8.3	7.9
うち、最終面接の社数	2.2	1.6	2.2	2.3	2.6

内定有無／内定社数					
(%・社)					
	全体	(前年)	文系	理系	【国内学生】
内定あり	42.6	38.2	40.7	50.0	81.1
内定なし	57.4	61.8	59.3	50.0	18.9
内定社数／平均(社)	2.0	1.6	2.0	2.0	2.3



11. 就職活動の難易度

就職活動の難易度を尋ねたところ、「とても厳しい」（42.8%）、「やや厳しい」（37.9%）を合わせて 8 割以上が「厳しい」と回答（計 80.7%）。「やややさしい」「やさしい」は、合計でわずか 3.2%。一方、国内学生では「厳しい」は 4 割（計 39.8%）と外国人留学生の約半分。「やさしい」が計 28.9%と 3 割近くに上り、外国人留学生とは顕著な差が見られる。大半の外国人留学生にとって、厳しい就職戦線であることが、ここでも表れている。



12. 企業に評価してもらいたいこと

企業に評価してもらいたいことを尋ねたところ、外国人留学生の 1 位は、「コミュニケーション能力」（56.3%）。次いで、2 位「語学力」（35.4%）、3 位「異文化対応力」（31.8%）と続く。日本での留学経験を通じて向上させた能力や資質を評価してもらいたいと考える留學生が多いことがうかがえる。

一方、国内学生が評価してもらいたいこととしては、「協調性」「コミュニケーション能力」「熱意」「信頼性」などが上位に来ており、組織のなかで円滑に業務を遂行できる能力をアピールしたいようだ。

企業に評価してもらいたいこと(上位10位まで)

外国人留学生		国内学生		日本人留学生	
1	コミュニケーション能力 56.3	1	協調性 44.7	1	コミュニケーション能力 54.8
2	語学力 35.4	2	コミュニケーション能力 42.3	2	異文化対応力 39.3
3	異文化対応力 31.8	3	熱意 31.4	3	協調性 34.2
4	基礎学力 29.6	4	信頼性 30.1	4	語学力 27.2
5	熱意 28.2	5	明るさ 27.1	5	社交性 25.3
6	専門知識 23.8	6	社交性 23.6	6	信頼性 23.6
7	協調性 23.5	7	身だしなみ・マナー 23.5	7	リーダーシップ 23.4
8	社交性 21.7	8	基礎学力 22.8	8	基礎学力 22.9
9	明るさ 19.9	9	一般常識 17.4	9	熱意 20.8
10	信頼性 19.1	10	リーダーシップ 15.9	10	明るさ 17.2

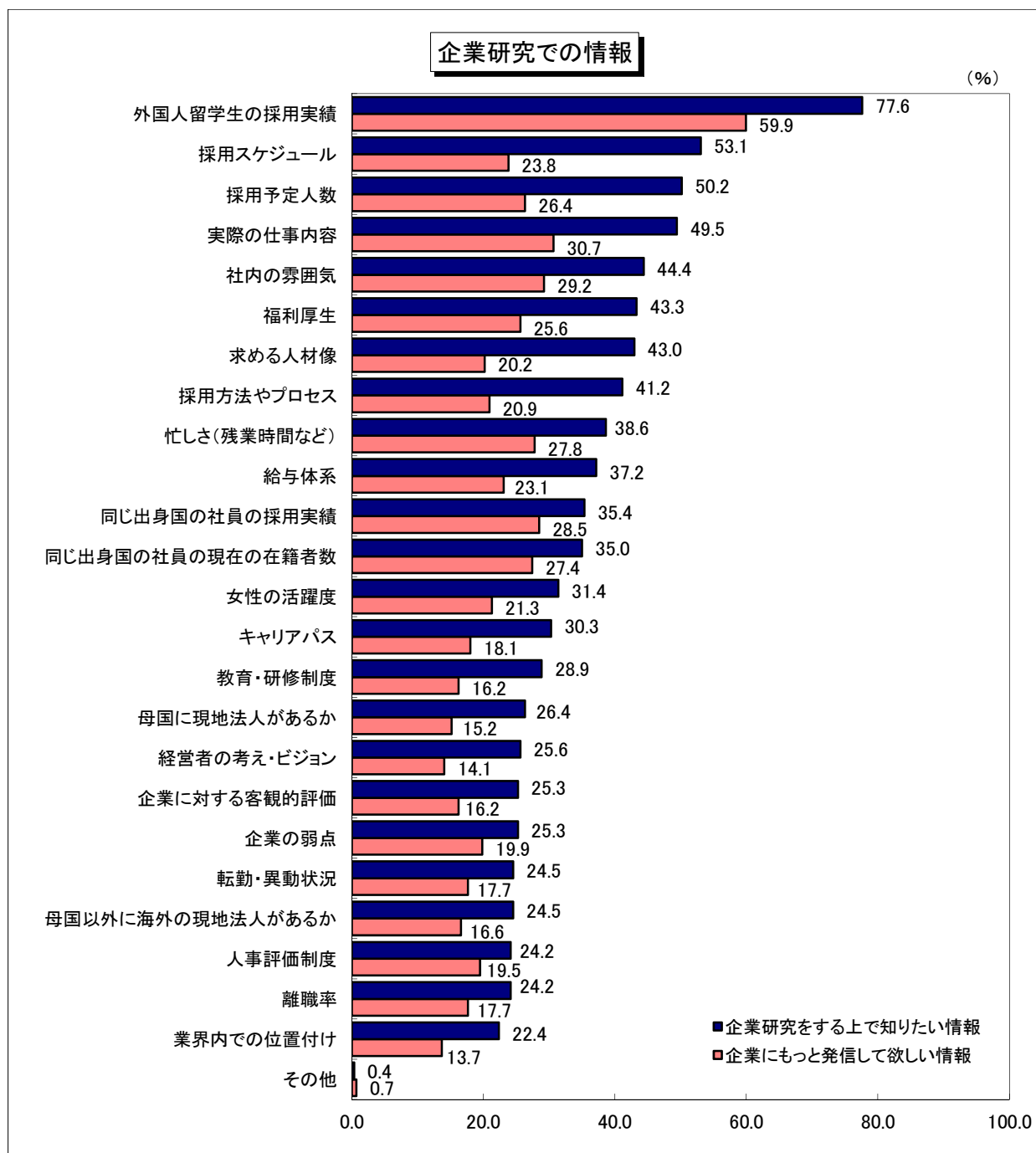
※全24項目のうち上位10位まで

13. 企業研究をする上で必要な情報／もっと発信してほしい情報

「企業研究をする上で必要な情報」と「企業にもっと発信してほしい情報」について尋ねた。

まず、企業研究をする上で知りたい情報は「外国人留学生の採用実績」が77.6%で圧倒的に多い。一方で、「採用スケジュール」「採用予定人数」といった基礎的な採用情報にも関心が集まった。

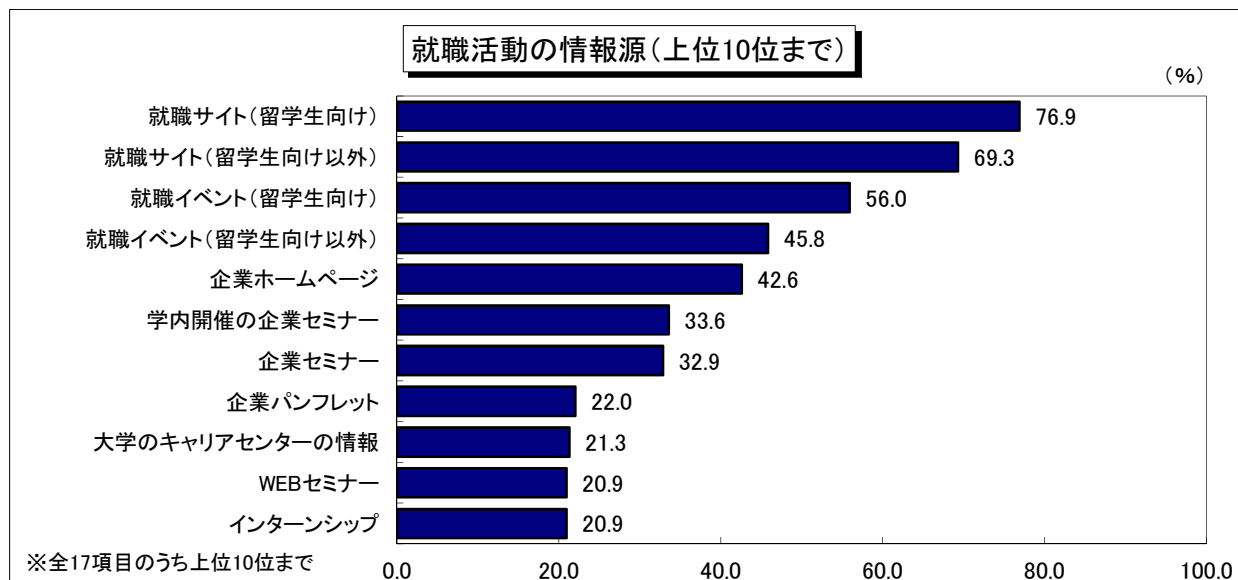
企業にもっと発信してほしい情報となると、「採用スケジュール」「採用予定人数」などの採用情報の数値は大きく下がり、企業側が積極的に情報発信している様子がうかがえる。「外国人留学生の採用実績」が約6割で最も多く（59.9%）、「同じ出身国の社員の採用実績」も約3割に上るなど（28.5%）、外国人採用にまつわる情報の積極的な開示を、企業に求めていることがわかる。



14. 就職活動の情報源

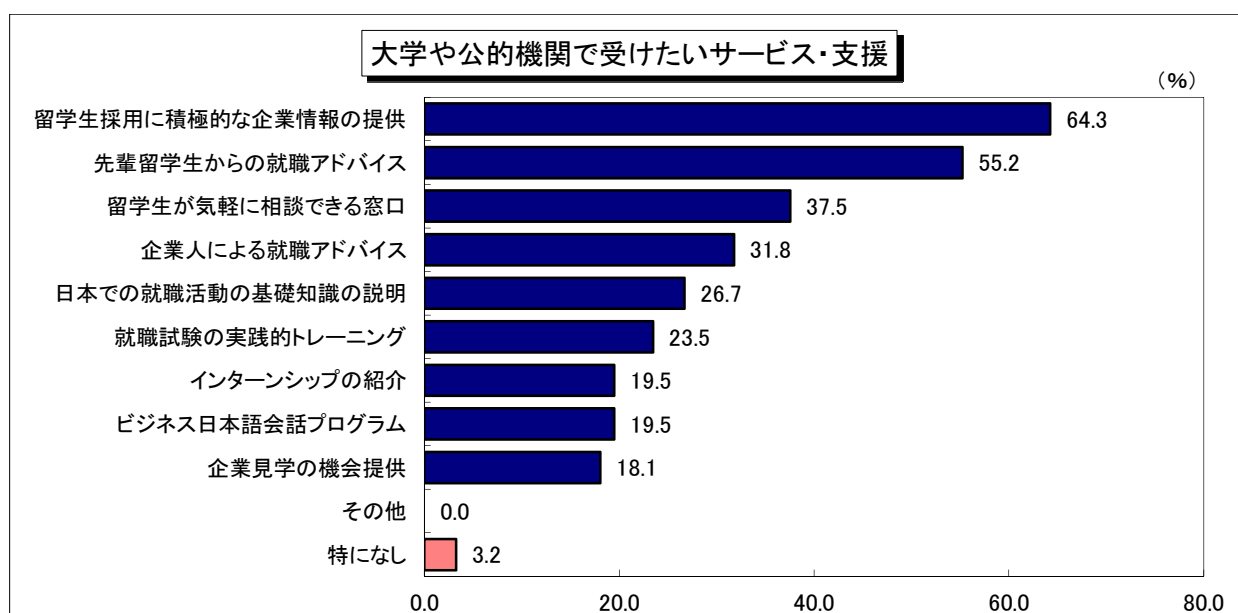
外国人留学生が活用している情報源について尋ね、上位項目をグラフにまとめた。最も多いのは「就職サイト（留学生向け）」（76.9%）。「就職サイト（留学生向け以外）」（69.3%）がこれに続き、就活生向けの情報を広く活用していることがわかる。

「就職イベント（留学生向け）」（56.0%）、「就職イベント（留学生向け以外）」（45.8%）など、イベントに足を運んで情報収集をする姿勢も見られる。



また、大学や公的機関で受けたいサービスについて尋ねたところ、「留学生採用に積極的な企業情報の提供」（64.3%）、「先輩留学生からの就職アドバイス」（55.2%）、「留学生が気軽に相談できる窓口」（37.5%）の順に多かった。外国人留学生の就職活動に特化した情報や、気軽に相談できる人・窓口を求めていることがわかる。

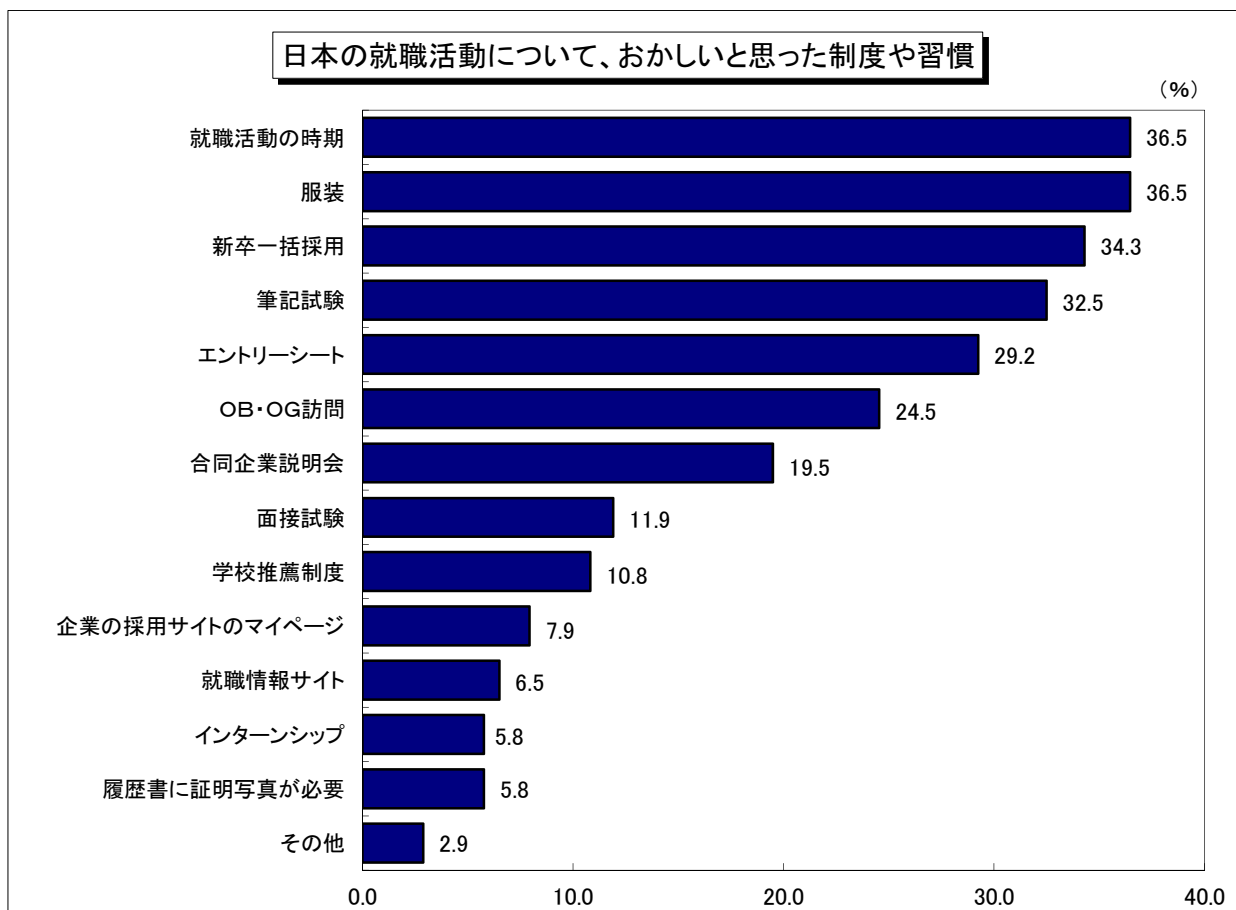
「特になし」を選択した人は3.2%にとどまり、多くの外国人留学生が就職に関して専門的な支援を必要としていることが読み取れる。



15. 日本の就職活動でおかしいと思った制度や習慣

外国人留学生が、日本での就職活動を通して、おかしいと思った制度や習慣を尋ねてみた。

最も多かったのは「就職活動の時期」と「服装（リクルートスーツ）」（36.5%）。「就職活動の時期」については卒業前の早い時期に就職活動をするため、学業との両立が厳しいというコメントが多く寄せられた。また、「服装（リクルートスーツ）」については、欧米やアジアの国でも就職活動でスーツやそれに近い服を着ることはあるが、就活専用スーツがある国は日本だけと言われており、日本特有の服装に違和感を覚えたようだ。日本では習慣化している制度も、外国人留学生から見ると奇異に映ることが多いという結果となった。



- 一律的に3月から始まる制度がよくないと思う。卒論に一番力を入れる4年生になる前に始まっていて、研究内容で非常に困ったこともたくさんある。 <韓国出身>
- 院生1年目から就職活動を始めなければなりません。しかしまだ日本の生活に慣れていなく、焦っている外国人は多いです。 <中国出身>
- 就活期間がとても長くて、面接回数も多いです。 <中国出身>
- 就職活動用のカバンやネクタイの色など、みんなほぼ同じものを持って行くこと。 <マレーシア出身>
- 自国と違って、多くの企業は会社説明会に参加しないと次に進めないケースが多いので、かなり時間がかかり、無駄だと思います。 <中国出身>
- 外国人として、筆記試験が結構難しいです。夏の場合でも必ずスーツを着るのは厳しいです。 <中国出身>
- 新卒一括採用のチャンスを逃したら、次のチャンスが非常に少なくなるところがおかしいと思いました。優秀人材だと思ったら卒業後何年か経っても採用した方がいいではないでしょうか。 <ベトナム出身>
- 日本人の学生と同じ枠で採用されることは、外国人にとって難しいのではないかと思います。 <中国出身>